

## 1 授業の実際

### (1) わたしたちのポスターはどのような評価を受けたのかな（本時）

子どもたちは1年生と6年生が投票している場面は見ていませんでした。そのため、結果を発表する際は「どきどきしてきた。」「先週からこの時間をずっと楽しんでいた。」と自分たちのポスターがどのように評価されたのかとても気になる様子でした。結果に対して、様々な感想が出ましたが、評価が低かった班のポスターについては、どうしてそのような結果になったのかみんなで原因を考えました。その際、各班のポスターを比較しながら、1年生や6年生はそれぞれどのような情報を求めているのか、どのような表現方法なら伝わりやすいのかについて1年生や6年生の立場に立って考えようとしていました。

### (2) 青年部の方にポスターを見てもらおう

6年生のアドバイスを受けて修正したポスターを、山口商工会議所青年部の方に見てもらいました。子どもたちのポスターについて良いところを価値づけてくださったり、改善点を示してくださったりしました（図1）。また、当日は5名の方に来校いただきましたが、その中のウェブデザイナーの方から、ポスター作りに関わるデザインについての出前授業も行っていただきました。山口商工会議所青年部の方々からの話を聞くことで、子どもたちは大人の立場や、運営側の立場、お店屋さん側の立場から自分たちのポスターがどのように見えるのかに気付くことができました。



図1 青年部の方による評価

## 2 今後に向けて

子どもたちは、新しい視点を獲得するたびにポスターを見直し改善していきました。終わってみれば、どの班も3～5枚のポスターを描き直しました（図2）。「多様な視点で見る」ことを大切にすることで、イベント後の振り返りでは表1のような発言が見られました。

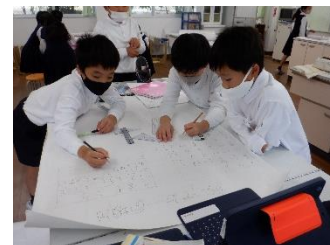


図2 ポスターを描き直す様子

表1 子どもの発言

- |   |
|---|
| <p>○初めてお店側として参加して楽しかった。たくさんの方がわたしたちの作ったポスターを見てくれてうれしかった。準備は大変だったけどやってよかった。（I児）</p> <p>○お祭りで頑張っている人のことがわかった。大人が考えていることも分かった。自分も大人になって同じようにお祭りをやるかもしれない。（K児）</p> <p>○来年は、川や魚のこと以外のことも発表してみたい。山口市の他のイベントやお祭りにもポスターを出してみたい。もっと山口市の楽しさを伝えて、みんなに山口市のことを好きになってもらいたい。（K児）</p> |
|---|

上記のように、子どもたちは多様な視点をもって自分たちのポスターや地域のイベントを見ることができました。そして、本気になって子どもたちに対応してくださった山口商工会議所青年部の方々の存在が大変重要だった感じています。人・こと・ものの本物との出会いを大切にしながら、今後も「多様な視点で見る」ことを取り入れた授業について研究を進めていきたいと考えています。